



JIC インフォメーション

第205号 2020年3月1日 臨時号
年4回 1・4・7・10月の10日発行
1部500円

発行所: JIC 国際親善交流センター 発行責任者: 伏田昌義

<http://www.jic-web.co.jp>

東京オフィス: 〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-14-8 YPC ビル 7F TEL: 03-3355-7294 jictokyo@jic-web.co.jp

大阪オフィス: 〒540-0032 大阪市中央区谷町 2-7-4 谷町スリースリースビル 7 階 TEL: 06-6944-2341

はりねずみのジェーニャ



ロシア・旧ソ連 国際交流誌



写真: ロシア映画祭特集/右上=映画祭の開会式、左上=シンポジウム「映画を観れば『今のロシア』が見える」、左下=上映後の監督らとの質疑応答、右下=「俺たちには死が似合う」ボリス・グッツ監督、プロデューサーのグセンツォワさん。

<http://www.jic-web.co.jp>

<青山学院大学 公開講座>

「ロシア外交と日ロ関係」

……ミハイル・ガルージン駐日ロシア連邦大使……2P

<募集中> キルギスでの日本語教師………7P

<第3回ロシア映画祭の報告>

「協力の輪が広がった映画祭」………伏田 昌義………8P

日本語字幕やロシア語教育をめぐる話………守屋 愛………10P

ロシアへの愛を込めて〜繋がる〜ご縁……田島瑠采奈………11P

「ロシア文化事典」出版記念シンポジウム………14P

ロシア文化フェスティバル 2020 年のプログラム ……15P

<講演録> 「下から見たロシア」……ヨコタ村上孝之………16P

<ベラルーシ留学記> 墓場になった村……鎌田幸伸………18P

JIC では、Jクラブ(JIC 友の会)会員を募集しています。
年4回の情報満載のインフォメーションをお届けします。

青山学院大学公開講座(19年11月28日)

昨年 11 月 28 日、青山学院大学（東京都渋谷区）において、ミハイル・ガルージン駐日ロシア大使の講演会が開催されました。「ロシア外交と日ロ関係」と題した講演で、ロシア側から見た現下の国際関係と日ロ関係が、分かりやすく的確に話されました。国際政治経済学部での公開授業として行われた講演会では、多くの学生が率直な質問を繰り出し、大使の回答もまたそれに真正面から答えるものでした。公開授業の主催者である羽場久美子教授、ポダルコ・ピョートル教授の了解をいただき、以下、ガルージン大使の講演録を質疑応答も含めて掲載させていただきます。（編集部）



「ロシア外交と日ロ関係」

ミハイル・ガルージン（駐日ロシア連邦大使）

本日の表題は「ロシア連邦の対外政策～ヨーロッパと東アジア」となっていますが、私は「ロシア外交と日ロ関係」というテーマを中心に話を進めたいと思います。

皆さんは国際関係の勉強をしていらっしゃるの、プーチン大統領やラブロフ外務大臣の発言をニュースなどで聞かれることがあると思います。まず、ロシア政府の指導者やロシア外務省は、現在の国際社会における主な傾向、主な動向をどう見ているのか、ということから私の話をスタートしたいと思います。

I. 多極化する国際社会とロシア外交

多極化する世界

われわれの考えでは、現在の国際関係において、基本的に二つの傾向が顕在化していると思われます。

一つ目は多極化。つまり、多極的な国際関係構造の形成という傾向であります。これは客観的な性格を持つ傾向です。

何が国際関係の多極化を生み出しているのか、あるいは多極化を促しているのか。それは、冷戦の終結から現在までの間に、新しい政治的経済的影響力を持つ国家が登場してきたからです。中国、インド、ブラジル、南アフリカなどの国々が、国際社会に積極的に登場して、自分の利益や関心事を主張するという新しい国際構造、冷戦時代の米ソ二極構造とはまるで違う新しい構造が生まれてきました。

多極化を促しているもう一つの大きな要因は、それは現在、国際社会が直面しているチャレンジ、脅威、問題の性格であります。つまり、いくら強力な国であっても、一国の能力で対応しきれない問題がたくさん出てきているからです。例えば、地球全体の気候変動、大量破壊兵器の拡散防止、あるいは、国際テロとの戦い、麻薬取引や海賊など。これらは明らかに国境を超えた挑戦でありまして、そのような問題に対応するには、やはり多国的な協力、集団的な努力が何よりも求められる。そのような時代に入りました。

新たな多国的枠組みの形成

このような多極化への傾向は、客観的に見て、国連の役割を高めています。第二次世界大戦後、恒久的な平和を保障するために作られたユニークな組織である国連の役割は、ますます高くなっています。

と同時に、多極化傾向は、新しい政治的経済的影響力を持つ国々の登場とともに、様々な多国的な組織、多国的な枠組みの創設を促しています。現在、影響力を高めつつある多国的な枠組みがすでにいくつか形成されています。例えば、今年日本が議長役を果たして大阪で開催された G20（金融・世界経済に関する 20 カ国地域首脳会合）があります。あるいは BRICS（ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカ）という新興国の枠組み。さらに、ロシア、中国、インド、パキスタン、カザフスタンなど中央アジアの国々が参加する上海協力機構。ロシア、ベラルーシ、アルメニア、カザフスタン、キルギスタンが加盟しているユーラシア経済連合、などなどの組織があります。

ここにあげた多国間組織は、これまでの国際組織とは活動パターンが大きく違っています。すべての決定がコンセンサスで行われ、内政干渉あるいは相手国への押し付けといったやり方をまったく採用していない、本当の意味で互恵的な協力を基礎とする組織であります。NATO（北大西洋条約機構）のような、一国の指示に他の 20 数カ国が従うというやり方とはまるで違う多国間の枠組みが形成されつつあります。

多極化に逆行する「古い西側」のやり方

この多極化という傾向に対して、国際社会ではもう一つの傾向が現れています。

それはいわゆる西側陣営が、これはアメリカをはじめとする古い西側のことですが、冷戦終結の直後一時的に獲得した支配的な立場、自らの覇権的な立場を、何としてでも守ろうとする傾向であります。つまり客観的に進行する多極化傾向

に抗い、これと対抗する傾向ですね。

アメリカ、NATO 諸国とその支持国は、自分たちの優位を非法律的な形で、あるいは国連憲章に違反する形で守ろうとしています。それは、彼らが好ましくないと考える政権を倒して交代させるために、武力行使、武力侵略、武力による内政干渉を辞さないという方法であります。例えば、旧ユーゴスラビアでのコソボ空爆がそうでしたし、イラク、リビア、シリアなどでもそうでした。国連の安全保障理事会の議決なしで、武力を行使して当該国の政権を強制的に変えさせるという方式です。

この他に古い西側がよく使っている方法について言うと、それは他国に対する経済制裁です。政治的な問題を口実にして経済制裁を発動する。政治的な煙幕を使ってはいませんが、実際には経済的な競争相手を弱めるというのがその目的です。例えば、ロシアに対して経済制裁が行われているし、中国に対しても行われています。このような政策は、正統で公正な国際貿易を崩すものであり、世界の安全保障に対しても大きな損害を与えています。

軍縮諸条約からの危険な脱退

もう一つの西側の方法は、それは、これまでグローバルな戦略的安定を支えてきた軍縮条約を壊すという方法であります。例えば、アメリカはもうすでに 2002 年に ABM 条約（弾道弾迎撃ミサイル制限条約）から脱退し、この条約を失効させました。さらに、アメリカは最近、INF 条約（中距離核戦力全廃条約）の破棄をロシアに通告しました（19 年 2 月 1 日）。トランプ大統領は CTBT 条約（包括的核実験禁止条約）を批准しないとも明言しています。アメリカはまた、イラン核合意（イランの核開発計画に関する包括的共同行動計画）から一方的に脱退しました。つまり、自分の軍事的な優位を確保するために、世界の安定を支えてきた軍備管理・軍縮における諸合意、諸条約から、アメリカは脱退するか、あるいは脱退をほのめかすという大変危険な行動を取っているわけです。

国連憲章に基づく国際法秩序の破壊

ここで私が特に言っておきたいことは、このような古い西側のやり方はこれまで世界の安定、安全を支えてきた国連憲章に基づく国際法秩序を覆し、破壊しているということです。

これらの政策の結果はさきわめて破局的なものであるということをお願いしたいと思います。例えば中東地域を見てみましょう。アメリカはイラクのフセイン政権が大量破壊兵器を保有しているという口実で武力侵略を行い、合法的な政府を倒しました（2003 年 3 月）。で、イラクの国家体制が崩れて生じた空白を誰が埋めたのかというと、国際テロリストです。ISIS（イスラム国）です。ISIS はイラクのほぼ全土、シリアの一部などを占領して、イスラム過激主義による暴力支配を行いました。現在も、ロシアをはじめ多くの国々がシリアの合法的政権と協力して ISIS と戦っています。イラクでは、今なおアメリカの軍事侵攻による破局から完全に立ち直ることができずに、大変悲劇的な状態が続いています。

国連中心に多国的協力を推進するロシア外交

このような国際社会の動きの中で、ロシアはどのような外交政策を進めているのでしょうか。

ロシアは、現在、世界が直面しているグローバルな脅威、諸問題に対して、国際社会が統一して、団結して対応するために、いろいろな提案を行っています。それは例えば、プーチン大統領が 2015 年 9 月の第 70 回国連総会で提案したようなイニシアチブであります。国際テロと闘うためのグローバルな連合の形成、宇宙空間における軍拡競争の防止、IT インターネットがますます拡大する下でサイバースペースにおける国家の責任ある行動規範の採択、気候変動に関するパリ協定の維持とその実施、といったイニシアチブをロシアは提案しています。

さらに、公正で互恵的な経済協力を発展させるために、ロシアは拡大ユーラシア・パートナーシップという構想を提唱しています。これは、上海協力機構、ASEAN、ユーラシア経済連合、EU などの枠組みを連携させて、経済協力、科学技術協力を進めるための、拡大ユーラシア圏の形成をめざすイニシアチブであります。つまり、ロシアの外交は、世界的に重要な問題に対応するために、国連の中心的な役割を基礎としたアプローチ、G20 とか上海協力機構といった多国間の枠組みに基づくアプローチを進めているわけです。

第二次世界大戦の歴史の書換えは認めない

もう一つ重要なポイントとして申し上げておきたいことは、最近、西側諸国は、ロシアに対して圧力をかけるために、第二次世界大戦の歴史を書き換えようとする動きを活発化させています。今年は第二次世界大戦の開始から 80 周年ですが、第二次世界大戦の勃発にソ連（ロシア）がヒトラー・ドイツと同様に責任を持っているかのような間違った説が流されています。実際には、ソ連がドイツと不可侵条約を結んだのは 1939 年 8 月であって、他のヨーロッパの国々がヒトラーと同様の条約を結んだあと最後に、ソ連は不可侵条約を結んでいます。イギリス、フランス、イタリアとドイツが 1938 年 9 月にいわゆるミュンヘン合意を結んで、ナチス・ドイツによるチェコスロヴァキアの合併、侵略を容認したことが第二次世界大戦の引き金となりました。ソ連がヒトラーと手を組んで戦争を開始したという論評は事実無根であるということ、この機会を借りて申し上げたいと思います。

II. 日ロ関係と平和条約交渉

ロシアは日本にとって信頼できる協力相手

日ロ関係について申し上げます。まず、日本の皆さんに知っていただきたいことは、ロシアは日本にとって信頼できる、将来性のある協力相手国である、ということであり、ロシアは真面目に日本との善隣関係、友好関係を進めていきたいと考えております。

ロシアが日本にとって信頼できる協力相手だということを、われわれは実際の行動で示しています。例えば、ロシアは天然資源に富んだ国ですから、大量のエネルギー資源を外国に輸出しています。ヨーロッパ諸国で消費される天然ガスの 4 割はロシアから輸出されています。ロシアはこれを一度も断ったことがありません。自分の契約上の義務をきちんと果たしています。日本に対しては LNG（液化天然ガス）を輸出しており、日本の LNG 消費量の約 7%をロシアは供給

しています。このように、信頼できる相手国であるということと、われわれは欧州だけでなく東アジアでも示しています。

これ以外にも、ロシアから、原油、アルミニウム、ニッケルなど、戦略的に重要な資源が日本に輸出されており、日本の産業のために効果的に使われています。

日ロ経済協力の大きな潜在力

ロシアと日本との間には、経済協力をさらに進めるための大きな潜在力があると思っています。例えば、今年 9 月に、ロシアの民間エネルギー企業・ノヴァテクと日本の三井物産・JOGMEC（石油天然ガス金属鉱物資源機構）は、ロシア北極圏での天然ガス開発・LNG 生産事業で合意しました。LNG は北極海航路で日本へ輸出される予定です。

これ以外にも有望な案件がたくさんあります。例えば、シベリア鉄道を利用した日本とヨーロッパとの間の貨物輸送の拡大。今年 2 月に日本・EU 間の経済連携協定が発効してから、この輸送ルートは日本にとってますます有望なものとなっており、私どもはシベリア鉄道の貨物輸送の時間をできるだけ短縮するよう努めています。

さらに、先ほど紹介した新しい海上輸送ルート・北極海航路を、日本とヨーロッパとを結ぶルートとして、効果的に活用することができます。現在、ロシア政府は、北極海航路のインフラストラクチャー整備に大きな努力を払っています。港湾設備の近代化、通信設備の高度化、砕氷船の建造などの対策を進めています。北極海航路で輸送される貨物量を 2030 年には 8 千万トンまで増やす計画です。

日ロ間の経済協力の可能性については、もう一回の講演ができるくらい大きな潜在力があります。

ロシアは日本の敵ではない

ここで、日ロ関係の文脈において、皆さんの注目を引いておきたいポイントがあります。

パリ気候変動対策協定からの脱退、イラン核合意からの脱退、CTBT 条約の批准の拒否、あるいは、日本経済にも被害を与える対中経済制裁の発動、日本が関心を持っている中東和平とは相入れないイスラエルにおける米大使館のテルアビブからエルサレムへの移転といった、つまり明らかに日本の国益に反する行動を起こしているのは、決してロシアではありません。日本の一番緊密な同盟国であるアメリカです。ロシアは何一つ日本の国益に反する行動をとっていません。

しかし、それなのに、日本のマスコミでは、あたかもロシアが日本の敵とまでは言わないけれども、何か日本に対して悪意を抱いている国であるかのようにロシアを描く傾向が強いのです。

最近の例で言うと、GSOMIA（日韓秘密軍事情報保護協定）の延長をめぐる日本と韓国との問題があったでしょう？ 対北朝鮮をめぐる日米韓の軍事的連携が維持できるかどうかということが話題になりました。これについて、日本の一部のマスコミと政府の方々は何を言い始めたかということ、「もし日米韓に軋轢が生じるならば、その利を得るのは中国、北朝鮮、ロシアだ」というふうな発言があったわけです。しかし、朝鮮半島の非核化問題に対応する際にロシアは一度も関係国の不一致や分離を提案したことはありません。逆に、ロシアは

中国とともに、朝鮮半島問題解決のためのロードマップ（行動計画）を作成して、関係国に提示しています。ロシアは、朝鮮半島の非核化あるいは北東アジアにおける安全保障体制の構築のために、何よりも関係国の統一が必要であるということと、ずっと前から主張してきましたし、そのために六者協議への積極的な参加など具体的な行動をとっています。なのに、日本のマスコミの中では、ロシアが朝鮮半島の問題について、あたかも日本の利益に反する行動を取っているかのような報道が相次いでいるのはおかしいし、大変残念です。

ロシアは日本との協力努力を惜しまない

ロシアは、国際問題を解決する上で日本と積極的に協力する努力を惜しみません。その具体的な例の一つあげると、ロシアは日本、国連薬物犯罪防止事務所（UNODC）と協力して、世界的な麻薬の温床となっているアフガニスタンの麻薬取締官育成プロジェクトを三カ国協力の形で進めています。日本と国連の協力を得て、ロシアの内務省・警察大学でアフガニスタンと中央アジア諸国の麻薬取締官を教育するプロジェクトです。さらにそのプロジェクトを拡大して、アフガニスタンで麻薬取締のために使われる探知犬の育成も行っています。

ロシアは、日本を大変将来性のある協力相手として見ています。経済交流だけではなく、国際問題の解決や科学技術問題での協力もそうですし、文化交流・人的交流においてもそうです。われわれは、より幅広い分野において日本との協力を進めていきたいと考えています。

シンガポール合意（2018 年 11 月）～日ソ共同宣言を基礎に交渉を加速

日ロ関係について話す場合、平和条約問題に触れないわけにはいきません。私は、ロシア側にはこの問題を解決する用意がきちんとあるということを、まず申し上げておきたいと思います。

平和条約問題の解決にアプローチする際、私たちはこの問題が悲劇的な過去から生じた大変敏感な問題であるということとを、理解し合わなければならないと思います。

ロシア側としては、安倍総理とプーチン大統領が 2018 年 11 月にシンガポールで達成した合意に従って、行動していきたいと考えています。シンガポール合意は、1956 年の日ソ共同宣言を基礎にして平和条約交渉を加速させることを確認しました。

日ソ共同宣言というと、日本の皆さんは、歯舞、色丹の二島引き渡しを規定した第 9 項だけをよく引き合いに出しますが、私はもっと総合的にアプローチすべきだと思っています。日ソ共同宣言は 10 項目から成り立っています。第 1 項は「日ソ両国が戦争状態を終了し、平和と友好善隣関係を回復する」と述べています。そこで皆さんにお聞きしたいのは、日本がアメリカが主導する対ロシア制裁に参加することは、共同宣言第 1 項の精神に合致しているのでしょうかということです。

あらゆる分野で制限を課さずに協力を拡大すること

1956 年の日ソ共同宣言第 9 項は、「ソ連は、日本国の要望にこたえかつ日本国の利益を考慮して、歯舞群島及び色丹島

を日本国に引き渡すことに同意する。ただし、これらの諸島は日本国とソ連邦との間の平和条約が締結された後に現実に引き渡されるものとする」としています。

ですから、まずやらなければならないのは、無条件に平和条約締結の努力を行うことです。

先ほど申し上げたように、この問題は過去に根を下ろしたあまりにも敏感な問題ですから、どうしても両国の世論、両国民の同意と理解がないと解決できない問題です。両国民が納得できる解決策を最終的に見つけ出すために何が必要であるかという、それはやっぱり日ロ関係全般の雰囲気、抜本的な改善、抜本的な良好化であります。これをどう実現するか。それは、経済、政治、安全保障、文化、教育など、すべての分野で、何ら制限を課さずに、積極的に協力関係を拡大することであるとわれわれは思っております。2019 年 1 月モスクワでの首脳会談のあと、プーチン大統領が安倍総理との共同記者会見で次のように発言したことに、皆さんの注目を促したいと思います。

『これから、われわれは必要な条件を作り出すために、大きな、大規模な作業を控えている』

ロシアの安全保障上の懸念

今、私は安全保障にも言及しました。日ロ平和条約交渉は、安全保障の問題とも深く関係しています。ご案内のとおり、日本はアメリカの同盟国です。それは日本の主権国家としての選択であるので、私たちは、これにコメントしたり、異議を唱える立場にはありません。ただ、私たちがコメントする立場にあるのは、日米同盟がロシアの安全保障上の利益にどのような影響を及ぼしているかということです。そのことについては、私たちは発言する権利を持っています。

その意味で、私たちは大きな懸念を抱いております。今現在のアメリカの対ロ政策は決して友好的ではありません。控えめに言っても、非友好的です。そのアメリカの政策の下で、在日米軍はロシアの安全保障上の利益に対する明らかな脅威であります。ですから、その脅威をどう解消するか、ロシアの安全保障上の懸念を日ロ平和条約交渉の文脈においてどう解消したらいいか、ということについて引き続き日本側と協議を続けていきたいと思っています。

第二次世界大戦に関するロシア国民の感情

さらに、両国の国民にとって納得のいく解決策を見つげ出すべきだという場合に、私どもが念頭に置いているのは、やはり第二次世界大戦の結果に関する考え方です。

ロシア側は四島に関わる日本国民の感情を最大限尊重するよう努力を重ねています。四島での「ビザなし交流」はその最大の現われです。最近、飛行機を使ったビザなし墓参も実現しました。これまで非公開だった地区でも墓参が可能になりました。さらに四島水域での日本の漁業者による操業もできるようになりました。現在、四島での共同経済活動について協議を進めており、すでに観光とゴミ処理の分野でパイロット・プロジェクトが行われています。これらの事業の基礎にあるのは、やはり日本国民の四島に関する感情を最大限に尊重するというロシアの態度です。

ですから、逆に、日本の皆さんにも第二次世界大戦に関す

るわれわれの感情を尊重していただきたいと思うのです。ロシア側の国民から見た領土問題、あるいは平和条約問題とはどういう問題であるかと言うと、それはまずソ連がアメリカ、英国などの連合国と協力して、世界史上最悪の政権であるナチス・ドイツおよびその同盟国と戦った第二次世界大戦の記憶と結びついています。この大戦でソ連は 2700 万人もの命を失いました。そして、国民に巨大な悲劇を強いた第二次世界大戦の結果として、四島を含むクリル諸島がソ連の領土になったとロシア国民は考えています。これは揺るぎない信念です。この私たちの感情も皆さんには認識し、尊重してほしいのです。

そして、両国民の感情を尊重しあいながら、相互に受け入れ可能な解決策、それぞれの世論が納得する解決策を見つげ出すために、対話を続けなければならないと私は思っております。

Ⅲ. 質疑応答

質問 1：日ソ中立条約について、ロシア側ではどういった理論で日本に宣戦布告したと考えているのですか？

—— ロシア側としては、日ソ中立条約、そしてソ連の対日参戦をどう見ているかという質問ですね。

それはつまり、こういうことです。ソ連とイギリス、アメリカなど連合国が第二次世界大戦で戦っていたのは、ナチス・ドイツとその同盟国だということです。

残念ながら当時の日本はナチス・ドイツの同盟国でした。これは歴史的な事実です。そして、これまた残念ながら、当時の日本は、日ソ中立条約があったにもかかわらず、ナチス・ドイツに対ソ戦争において協力していました。ある条約が締結された以上、両締約国がそれを守るのは国際法上の通念であり、常識です。しかし、一方が違反行為をやるならば、他方は自分の義務を果たさなくてもいいという状況が生じてしまいます。まさしくそういう状況が日ソ中立条約に関して起きていた。だからこそソ連は対日参戦した。そういう考え方をロシア政府はとってきました。

質問 2：西側諸国は国際関係の中であまりよい影響を及ぼしていないという話でしたが、日本も西側諸国に入っていると思います。日本についても、アメリカや欧州のそれと同じような評価なのでしょうか？

—— 日本は確かに西側の一部です。しかし、西側陣営にあるからといってつき合わないというのはわれわれの外交ではないです。むしろ西側の方は、われわれが何かをやろうとする時に、「いや、あなた方とつき合わない」というのが残念ながら普通のやり方です。クリミアの問題でもって経済制裁を発動したのは西側であって、ロシア側が西側に対して何もしているわけではないです。例えば、アメリカをはじめ NATO 諸国は国連安全保障理事会の決議に真っ向から違反して、旧ユーゴスラビアを空爆し、コソボを一方的に独立させました。それについてロシアは何か経済制裁を発動したのでしょうか？それはいいです。ですから、西側に所属しているからといっ

てつき合わないというのは、われわれの外交ではないということを、まず申し上げておきたいと思います。

で、日本について言うと、日本は主権国家として、どの国と同盟関係を結ぶか、どの国と同盟関係を結ばないか、独自に決める権利があります。ですから、協力できる分野があれば協力を惜しまないというふうにはわれわれはアプローチしています。隣国である日本、経済大国である日本と協力をしないということは、ロシアにとっても不利益です。先ほど申し上げたように、日ロ間には経済協力において膨大な潜在能力がありますから、どちらの陣営に属していても協力は進めるべきだと思います。

講演で私が使った表現は「古い西側」です。私たちはそもそも陣営という表現を使いたくないのです。アメリカをはじめとNATO諸国は、われわれと一緒に、ロシアと一緒に、という選択を旧ソ連諸国に対して突きつけています。われわれはそういう分離線を引くような政策を取っていない。講演で申し上げたように、やはり国際社会が統一していろんな問題に対応できるよう努力しています。

質問3：冷戦期の東側陣営とかソ連の覇権は現地の人々の反対で瓦解したわけで、その一方で、西側陣営やアメリカの覇権は人々に支持されて、アメリカが主導して作った国際秩序を維持しようとするいろいろな協力が行われていると思います。そのことをロシアはどう見ていますか？

もう一つ、アメリカやヨーロッパで流布しているロシアのフェイクニュースについて、ロシア側の立場なり反論があれば教えていただきたいです。

——— 今の質問の趣旨は、冷戦が終わって東側諸国は「アメリカが作った国際秩序」の方に移ったのではないかということですね。

まず、私の考えでは、「アメリカが作った国際秩序」というものは実は存在していないと思います。質問者が言われる「アメリカが作った国際秩序」という表現では、アメリカの国際秩序観というか、アメリカの考え方を支持している国々が国際社会のすべてであるかのように聞こえます。実際にはそうではありません。アメリカとその同盟国の世界観に同意していない国は、例えば、ロシア、中国、インド、南アフリカなど、たくさんあります。その人口を数えると、むしろ多数なのではないでしょうか。ですから、いわゆるアメリカの作った国際秩序というものを過大評価しない方がいいと私は思います。

それに対して、ロシアは決してアメリカや西側諸国を除外するような国際秩序を主張しているわけではありません。国連憲章のもとで、皆で力を合わせて世界を脅かしている諸問題に対応していくべきではないかと私も主張しています。第二次世界大戦後、世界の安全を支えてきた国連と国連憲章のもとで、国際秩序を作ろうというのが、ロシア外交の目標であると申し上げたいと思います。

ロシアがフェイクニュースを流しているのではないかとこの質問には、私は、むしろロシアの方が西側の仕掛けるフェイクニュースの犠牲者ではないかと思っています。

例えば、2018年3月にイギリスで起こった元スパイ中毒事

件。もう2年近く経過していますが、英国当局・警察による捜査はまだ終わっていません。しかし、関係当局の取り調べが終わっていないにも関わらず、最初から「これはロシアがやったに違いない」と決めつけて、西側のマスコミは煽っています。これはフェイクニュースでなければ何でしょう。

ロシアによるフェイクニュースという場合、いわゆるロシアによるアメリカの選挙干渉ということが念頭にあるかと思っています。その点については、二点指摘しておきます。現在、アメリカ国内でトランプ政権の関係者が議会に召喚されているのは、ロシアではなくて実はアメリカが支援しているウクライナの疑惑です。ロシアとは関係ない。これが一つ。もう一つは、いわゆる選挙干渉について、アメリカはロシアに対して両国の司法協力ルートで正式にこの問題を提起するのではなくて、「多分そうに違いない」という形で騒ぎを起こしているということです。

2016年にアメリカ民主党全国大会が開かれた時に、新聞やネット上で民主党指導部はヒラリー・クリントンを支持し、他の民主党候補者の行動を妨げようとしているということがニュースになりました。これはフェイクニュースだったかというところではなく、ニュースが報道されたあと民主党事務局トップの女性が責任をとって辞任した。しかし、なぜかそれがフェイクニュースであると言われ、背後にロシアがいるという情報が何の証拠もなく流されました。これはアメリカ国内の政治闘争にかかわることであって、クリントンさんや民主党勢力はトランプさんに負けたことが我慢できなくて、敗北の原因を正当化するために外国勢力の陰謀を持ち出しているのだと思います。

質問4：日米安保条約のもとで、アメリカ側の意図は軍備にあまり投資したくないといった状況があって、アメリカは在日米軍を減らすといった声明を出していますが、その状況をロシア側はどのように受け止めているか知りたいです。

——— アメリカがアジア太平洋地域における軍事プレゼンスを削減しようとしているのではないかと、ロシアはそれをどう見ているかという質問ですが、まずロシアは、外国の第三国に軍備を置くことは基本的にやらないようにしています。外国に軍を出すのはやむを得ない場合のみです。現在は、シリアの合法的な政府の要請でロシアの空軍と軍事警察がシリアに駐留しています。これはテロとの戦いのための駐留で、すでにシリア領土のほぼ90%がISISから解放されました。もちろんロシア軍は任務を終えた時点で撤退する予定です。繰り返しになりますが、ロシアはシリアの合法的な政府の要請で軍を派遣している。しかし、シリアで活動しているアメリカ軍は、国際法に違反して駐留しています。なぜか。アメリカ軍の派遣は、国連安全保障理事会の決議によるものではないし、シリアの合法的な政府の要請によるものでもないからです。

率直に申し上げます。私は、アメリカが在日米軍を削減しようとしているという話を、今質問者の方から初めて聞きました。もしかしたら、アメリカの高官がそういう発言をされたことがあるかもしれませんが、私は聞いていない。また、在日米軍の削減をうかがわせるような具体的な動きも把握し

ていないです。ですから、そういう事実が確認できていないのに何かコメントするのは難しいです。

質問5：ソ連がナチス・ドイツとその同盟国との戦争で2700万人もの犠牲を払った。その結果として北方領土＝南クリルがソ連の領土となったというロシア国民の信念を尊重してほしいと言われたことは、感情面では一定の理解ができるのですけれども、論理的にはどうなのでしょう。こういった論理でロシアはこの領土を実行支配しているのでしょうか。

ロシアは9月2日の降伏文書の調印が本当の終戦日だと言っていると思うのですが、実際には9月2日以降にソ連軍が上陸作戦を完了した色丹島とか歯舞群島の領有は、こういった論理で主張しているのかなというのが私の疑問です。

——— 感情と論理に関する質問ですが、確かに私は講演のなかで感情の側面に重点を置いて話をしました。しかし、だからといって、それは法的論理がロシアの立場を支えていないというわけではありません。法律上の根拠、法律上の論理ももちろんあります。

ソ連、英国、米国の首脳は1945年の2月、戦後の国際秩序を定める合意を成立させるためにヤルタに集まりました。それらの合意のうちの一つは、ドイツの降伏後、ソ連が対日参戦をするということでした。理由は、日本が中立条約に違反しているということ。もう一つは英米の非常に強い要請です。

ソ連が日本との戦争に参加することは、そもそもルーズベルト大統領とチャーチル首相のスターリンに対する大変強い要望、要請でした。米英ソが結んだヤルタ協定で、ソ連は対日参戦を約束し、戦争のあとサハリン南部とクリル諸島を領有することが明記されました。このヤルタ協定には、ソ連がいつ実際にこの島々に入るかという期限は書かれていません。もう一つは、日本はサンフランシスコ講和条約でサハリン南部とクリル諸島に対する請求権を放棄しました。日本側が「南の四島はクリル諸島ではない」と主張するのは筋が通りません。ヤルタ協定によって、クリル諸島全体がソ連に引き渡されました。

「日本はヤルタ協定の締約国ではない。日本はそもそもヤルタ協定の締結を知らなかった」という理由で、日本の皆さんは「日本にとってヤルタ協定は無効である」と言っています。しかし、国際法上はそうならないのです。国連憲章第107条を読んでみてください。第107条は、連合国が第二次世界大戦中に旧敵国に対してとった措置すべての有効性を認めています。ですから、ロシアの世論、ロシア政府の立場には、感情的な側面もあるし、しっかりした法律上の論拠もあるということを申し上げて、締め括りにしたいと思います。

(2019年11月28日、青山学院大学にて)



日本語教師募集！ キルギスの11年生学校「ビリムカナ・カント校」

中央アジアの国・キルギスで日本語教師をやってみませんか。ピンケク郊外にある11年制学校「ビリムカナ・カント校」が、日本語教師を募集しています。

やる気のある人であれば、年齢、性別、学歴を問いません。給料は少なく、往復旅費も自前と、ほぼボランティアの条件ですが、教師経験を積み、ロシア語もしくはキルギス語を学習するよい機会になります。

<条件>

受入校；ビリムカナ・カント校（私立の11年制学校）

所在地；ピンケク郊外（バスで約30分）のカント市

授業数；1授業40分×1日3授業×週5日

給 料；月額150ドル

宿 舎；ホームステイまたは学校の寮（1人部屋/無料）

*アパートを希望する場合は自己負担。

特 典；希望によりロシア語またはキルギス語の授業が無料で提供されます（40分授業×週3～4回）。

募集人数；3～4名

期間；20年9月～21年6月（希望により短縮、延長可）

応募締切；20年3月31日

問合せ先；JIC 東京事務所 TEL:03-3355-7294

e-mail: jictokyo@jic-web.co.jp

第2回ロシア文学読書感想文コンクール 「私のトルストイ」

一昨年の第1回コンクールの成功を受けて、第2回ロシア文学読書感想文コンクールが今年も開催されます。

<課題作品> レフ・トルストイ作

★中学生の部：「幼年時代」または「戦争と平和」

★高校生と大学生を含む23歳までの青年男女：
「戦争と平和」または「アンナ・カレーニナ」

<応募期間> 2020年8月10日～9月11日

*9月11日までの消印有効

表彰式と朗読鑑賞の集い

日程；2020年12月

会場；早稲田奉仕園ホール（予定）

主催；NPO法人ヘラルドの会

herald.writingcontest@gmail.com

協力；ロシア文化フェスティバル日本組織委員会

後援；ロシア連邦文化省／在日ロシア連邦大使館



ロシア文化フェスティバル
RUSSIAN CULTURAL FESTIVAL IN JAPAN 2020

第3回ロシア映画祭 in 東京

12 月 12 日から 18 日まで第 3 回ロシア映画祭 in 東京を開催しました。2017 年から始まったこの映画祭は、ロシア文化省の主催で、その委託を受けたモスクワ God Kino 社と JIC 国際親善交流センターらで作る日本側実行委員会が協力して開催しているものです。第 3 回目の昨年は、新たに日ロ協会、日ロ交流協会に実行委員会に参加していただき、連日、映画好き、ロシア好きの観客を集めることができました。

以下、ロシア映画祭の報告です。映画祭を支えていただいた 2 人のプロデューサー、田島瑠采奈さんと守屋愛さんにもレポートを書いていただきました。併せて掲載します（編集部）。



開会式／挨拶するロシア側代表(12 月 12 日)

協力の輪が広がったロシア映画祭

今回の映画祭の上映スケジュールは、下表の通りです。

現代ロシア社会を背景としつつ信仰の意味を問いかける「黒いガラス」、男女関係 4 部作とも言えるラブコメディ「予想外のでき事」、iphone 撮影によりフィクションとドキュメンタリーが融合したような臨場感のある実験的作品「俺たちには死が似合う」、現代のモスクワとロシアのおとぎ話を組み合わせたエンターテインメント映画「ラスト・ボガトゥイリ」、…。そのほか、どれをとっても面白い作品ばかりで、観客の皆さんからは「素晴らしかった」と大好評でした。

本映画祭は、最新のロシア映画を紹介するのが大きな目的で、上映作品の大半は 2019 年に公開されたばかりの最新映画。コメディあり、ファンタジーあり、メロドラマ、悲喜劇ありと、バラエティに富んだ作品群はロシア映画の幅の広さと層の厚さを実感させるものでした。

また、上映作品の監督、プロデューサー、俳優らが映画祭に合わせて来日し、作品の上映後に観客と質疑応答を交わすのも、本映画祭の大きな特徴です。今回は、モスクワ God Kino

社のセルゲイ・ノヴォジロフ代表（「予想外のでき事」プロデューサー）をはじめ 10 名が来日し、各会場で観客と交流を行いました。

全作品の日本語字幕を日本側で制作

今回の映画祭でこれまでにない新しい取り組みとしては、まず第一に、日本語字幕を日本側で翻訳・制作したことです。第 2 回映画祭での「自動翻訳騒動」に凝りて、今回は早々にロシア側と交渉し、守屋愛さんをリーダーとする日本語字幕制作チームを立ち上げて、2 か月間の突貫工事で字幕制作を進めていただきました。おかげで、質の高い日本語字幕が完成し、作品内容の理解がより深まり、観客の感動を呼ぶことができました。

非常に限られた予算で、しかも短期間に、8 本もの作品の字幕制作を完成させることができたのは、ひとえに協力していただいた皆さんのボランティア精神と献身の賜物です。深く感謝する次第です。

第 3 回ロシア映画祭 in 東京 上映作品一覧

12 月 12 日	「黒いガラス」(コンスタンチン・ロプシャンスキー監督)	渋谷・シダックスホール
12 月 13 日	「予想外のでき事」(アンドレイ・ムイシュキン監督)	麻布台・ロシア大使館付属学校ホール
12 月 14 日	「俺たちには死が似合う」(ボリス・グッツ監督)	神保町・専修大学法学部教室
	「ラスト・ボガトゥイリ 最後の勇士」(ドミトリー・ジャチェンコ監督)	同上
12 月 15 日	「目を閉じれば見える」(エゴール・サリニコフ監督)	本郷・東京大学文学部大教室
12 月 16 日	「ポジティブに考えろ」(短編/イリーナ・ホデュシュ監督)	府中市・バルトホール
	「選択の権利〜ヴェーラ編」(エカテリーナ・ウスチュゴワ監督)	同上
12 月 17 日	「ハラフ・オディ」(ミハイル・メルズリキン監督)	恵比寿・東京都写真美術館ホール
12 月 18 日	「深い河」(ウラジーミル・ビトコフ監督)	恵比寿・東京都写真美術館ホール



上映後のトーク（観客の質問に答えるサリニコフ監督）



シンポジウム（12 月 15 日、東京大学文学部教室にて）

シンポジウム「映画を観れば『今のロシア』が見える」

第二に、映画製作者と観客との双方向の意見交換を毎回行ってきた延長上に、シンポジウム「映画を観れば『今のロシア』が見える」（12 月 15 日、東京大学文学部大教室にて）を開催したことも、これまでにない新しい取り組みでした。

沼野充義・東京大学文学部教授の司会進行で、日本側報告者には、ロシア映画研究の第一人者である井上徹氏、東京国際映画祭プログラミングディレクター矢田部吉彦氏、また日本語字幕制作チームの守屋愛氏に参加していただき、ロシア側からも映画「目を閉じれば見える」のサリニコフ監督をはじめ 3 名の報告をいただき、ロシア映画の可能性を語り合っていました。

時間的な制約でより突っ込んだ議論にまで踏み込むことはできませんでしたが、今後の日ロ映画交流の発展につながる第一歩をしるすことができました。

ロシア語・ロシア関係者に広がった協力の輪

さらに、映画祭実行委員会の枠組みも今回から大きく変わりました。前 2 回までは当センター（JIC）とユーラシア国際映画祭が中心になって日本側実行委員会を組織してきたわけですが、今回から日ロ協会（高村正彦会長）、日ロ交流協会（有馬朗人会長）が実行委員会に加わりました。また東京大学、専修大学、早稲田大学、東京外国語大学、創価大学、慶應義塾大学、お茶の水女子大学、日本ロシア文学会などにも協力をいただき、ロシア語・ロシア研究者の方々に広く宣伝を行うことができました。

日露学生会議や日ロ学生交流会、また守屋愛さんのロシア語授業を受けている学生の皆さんがボランティアで会場整理や受付に協力してくれました。

残された課題

このようにたくさんの成果があった今回の映画祭ですが、残された課題もまた多くあります。

ロシア関係者の間ではある程度宣伝が広がってきたもの

の、その一方で、映画ファンや映画関係者への周知はまだまだ進んでいません。アンケートでも「もっと広く告知してください。マニア仲間は誰も知らなかった」と激励&お叱りを受けました。

映画祭の会場がほぼ毎日変わり参加者に不便をかけたことや、開場時間、開会時間が明確でなく、会場運営が稚拙だったことなど（「大学の学祭レベル」と手厳しい批判もあった）、アンケートで指摘を受けました。12 月 17 日に映画祭と直接関係のない宣伝パフォーマンスが会場で行われたことにも強い不満が寄せられました。

「質問は簡潔に一つだけ。自己満足の『自分語り』はしないように」とか、「上映中にスマホに触らぬよう徹底注意を」といった観客マナーに関する意見もアンケートでは多数寄せられました。

また、実行委員会として残念だったのは、事前申し込みでは満席で 2-3 日前に受付を締め切ったにも関わらず、当日キャンセルが 2 割以上もあり、会場に空席が目立つ日が何回もあったことです。「無料上映」故のキャンセルはある程度織り込んでいたものの、3 割近いキャンセルがあった日には正直少しばかりへこみました。

もちろん、映画祭の開催が最終的に決まるのが、早くて 6 か月前（今回の第 3 回映画祭の場合は 3 か月前の 9 月だった）というロシアと一緒に仕事をする際に特有の困難な事情があることは事実です。きわめて短期間で、会場予約や日本語字幕作成、宣伝物やパンフレットの作成などの準備を進める必要があります。多くの関係者の方々の協力なしには映画祭を実行することができません。

一挙に解決できない問題もありますが、もし次回、第 4 回ロシア映画祭を開催するチャンスがあるならば、今回の教訓を踏まえて、より参加者の皆さんに楽しんでもらえる映画祭にしていきたいと考えています。

ご協力、ありがとうございました。

（ロシア映画祭実行委員会、伏田昌義）

第 3 回『ロシア映画祭 in 東京 2019』

日本語字幕やロシア語教育をめぐる話

守屋 愛 (日本語字幕制作チーム・リーダー)



ちょうど一年前に、この JIC インフォメーションに後日談を掲載していただきましたが、第二回『ロシア映画祭 in 東京』(2018 年)で映画『ドミカ』の字幕制作をしました。それがご縁で、昨年末の第三回ロシア映画祭でも字幕制作を担当させていただきました。ご来場くださったみなさまに、この場をお借りして心から感謝いたします。

字幕制作者にとって、このような場を与えられることは、大変うれしいことです。というのも、字幕は待たなしの瞬間に言葉を当てはめていく仕事です。小説の翻訳のように、途中で注釈を入れたり、あとに解説を書いたりすることはできません。本来は、いわば、言い訳をさせてもらえない仕事なのです。それなので、この場をお借りして、発信させていただけるというのは、やはり字幕制作者には稀有の幸運と言わざるをえません。

第一回と第二回のロシア映画祭ではロシアの映画製作者サイドが日本語字幕も担当するというのが原則でした。どういう過程で制作されてきたかは不明ですが、なかには自動翻訳機で作ったような字幕もあり、もともと難解なロシア映画がさらに難解になるということが度々ありました。それが、今回の第三回ロシア映画祭では日本側で字幕をつけさせていただくことになりました。とはいえ、具体的なお話をいただいたのは 10 月初頭のことでしたから、二か月間で七本の長編と一本の短編映画の字幕を作成しなければなりません。ジャンルもまちまちで、コメディあり、SF あり、社会派あり、おとぎ話あり。それに加えて、後から上映が決定した『選択の権利〜ヴェーラ編』はロシア製作陣が日本語字幕を準備することになりましたが、チェックをしないわけにはいきません。さらに、12 月に入っての土壇場で諸事情により上映予定映画『エビゲール』が『ラスト・ボガトイ〜最後の勇士』に差し替えになるなど、そうなる気が薄々ではいたけれど、やはり最後まで波乱づくめとなりました。

もちろん、これほどの字幕翻訳を 2 か月で用意するとなるとマンパワーが必要です。実際、今回の翻訳作業には、たくさんの方に参加していただきました。

ロブシヤンスキー監督の『黒いガラス』は重厚な内容の作品で、上映時間も長く、かつセリフの量も膨大です。宗教用語も多く、難解でした。そこで、この作品はロシア文学界の有望な若手である齊須直人さんをお願いしました。彼は京都大学大学院の博

士課程の所属で、かつサンクト・ペテルブルグのゲルツェン記念国立教育大学で博士論文を書いたという頼もしい経歴の持ち主です。さすが、ドストエフスキーの研究者とあって、この映画がドストエフスキーの『やさしい女』のバリエーションであるという監督のインタビュー記事にすぐ着目してくれました。いつかこの二つの作品の関係性について論文を書いてくれるかもしれません。大切なオープニング作品の難解なロシア語を正確に訳してくれました。

字幕制作をする場合、普通は、ダイアログリストや字幕ファイルといったロシア語テキストが送られてきて、私たちはテキストと映像を見比べながら字幕を作っていきます。でも、今回の映画には、ロシア語のテキストが送られてこないものもありました。ロシア語テキストがなければ、直接映像から聞き取るしかありません。ここは、日本語が堪能なロシア語ネイティブの力が欲しい！となります。そこで、そんな映画のひとつ、コメディ『予想外のでき事』はカリーニングラード出身のパウリナ・キャウラキーテさんをお願いしました。彼女は、お茶の水女子大学に留学生ではなく正規の学生として在籍している、日本語堪能の才女です。パウリナさんはお仕事がとても早かったので、このあと短編の『ポジティブに考えろ！』の字幕をお願いしました。字幕リストなしでもどんどん訳してくれた彼女は心強く、貴重な存在でした。『予想外のでき事』の上映では会場が何度も笑いの渦につつまれ、とてもいい字幕であったことは言うまでもありません。

他に、せっかくのロシア映画祭なので、観て楽しむだけでなく、字幕制作をたくさんの人に体験してもらい、ロシア語を学んで得られる達成感を共有したいと考えました。そこで、SF作品の『エビゲール』は、私の授業のロシア語学習者で希望者を募り、みんなですこずつ分担して訳してもらうことにしました。字幕リレー、参加者は9名。早稲田大学、慶應義塾大学、お茶の水女子大学の学生と、さらに慶應義塾外国語学校でロシア語を学ぶ社会人です。みなさんそれぞれ翻訳の苦労があったと思いますが、結果としていい字幕ができました。映画の最後にはみなさんの名前をテロップで一気に出す予定で、とても楽しみにしていましたが、なんと、『エビゲール』が映画祭一週間前になって上映中止、他の映画と差し替えになり、この字幕も幻の字幕となってしまいました。みなさん、この映画の上映を楽しみにしていたことと思

第4回開催に関しては、ロシア文化省様の意向次第になりますので、今年も開催へと繋がっていただける様に！また、ロシア映画祭でご縁を頂いた皆様との「繋がり」を大切に続けていけるようにとの願いを込めて、「繋ぐ！」想いを込めて、お伝えしていきたいと思います。どうぞお付き合いを頂けましたら幸いです。
(＊ここでは、敢えて映画作品の批評的な事には触れておりません。「映画」は個人の趣味嗜好がおおきく分かれるものなので

「ロシア映画」に関しては、シンポジウムにご登壇頂きました有識者の皆様にお任せして、私は「ロシア映画祭 in 東京」を通した、ロシア！との「繋がり」という切り口で、ロシアの魅力や映画祭の裏話・本音・＜余談＞ではプチトリビアな話を織り交ぜながら、はじめてロシアを知る方々に向けて分かり易く「ロシア映画祭 in 東京」から読み解く！ロシア映画の作品と共に様々な視点から書き進めていきたいと思います。）

<序章>

Q:ロシア映画祭とは？

上映前にもアナウンスさせて頂きましたが、「ロシア映画祭は、ロシア文化省の提供で開催されており、現代ロシアの最新の映画を観る事が出来る映画祭です。映画を通して、ロシアの社会事情や生活文化を知る事で、日露の文化交流が益々活発になり、両国の相互理解と友好関係が深まる事を目的としています。」

Q:どのような経緯で、ロシア映画祭実行委員として携わっているのですか？

まず、本文を書き進めるにあたり、大変恐縮ながら、私自身のロシアとのご縁について簡単に書かせて頂きます。

私の本業は映像制作者です。これまでに様々なジャンルの映像作品を制作し、各国での海外ロケも経験し、私的には海外旅行好きで、これまでに 80 か国を歴訪しました。

「自分が旅した場所とは、ご縁が続く！」という謂れがあるようですが、まさにロシアがそうでした。私がロシアを旅したいと思ったきっかけは二つあり、一つが、「チャイコフスキーの故郷の国を訪ねたい！」でした。生まれて初めて、自分の意思で欲しいと思った誕生日プレゼントのおねだりが、「オルゴール付きの宝石箱」でした。そのオルゴールの曲が「白鳥の湖」。5 歳の私が初めて聴いたクラシック音楽であり、子供ながらに曲の旋律に魅了されました。こんな素晴らしい曲が生まれた国を訪ねたい！子供ながらの夢でした。

私が幼少の時に触れたオルゴールの曲！というたわいもない出会いから、ロシア映画祭の運営に携わっていく事になるなんて！当たり前ですが、幼少の頃には思ってもみない事でした。

国を越えた繋がりとは、こんな些細な事から興味を持ち始まっていくのだと、体験を通して感じます。芸術文化に限らず、幼少時からの様々な体験をきっかけに「繋がる！」事が、個々のお互いを理解するチカラを育み、ひいては国と国との友好関係へと発展していく。平和で心豊かな住み良い世界になる為にも「繋がる」事が大事だという事を改めて実感しております。

二つめが、「世界三大美術館であるエルミタージュ美術館に行きたい！」

自身のクリエイティブ力を磨く為には世界中の有名な全ての美術館に行きましたが、私の中では「エルミタージュ美術館」が世界ナンバーワン！です。

サンクトペテルブルクにある世界遺産のエルミタージュ美術館は、約 300 万点の所蔵品に、（※1 分その前に立ち止まって鑑賞しただけで 4 年もかかるというくらいに膨大なものです。）2 千の部屋、ロシア・ロマノフ王朝の第 8 代ロシア皇帝エカテリーナ 2 世が 1775 年に王宮内に作った、個人的コレクションの鑑賞スペースがはじまりです。

元々、宮殿ですので目を見張る豪華な装飾(芸術作品)の中で、

名だたる巨匠達の作品が鑑賞できる！美術館は他にはありません。

不定期ではありますが、エルミタージュ美術館室内管弦団の生演奏を聴きながら美術品の鑑賞が出来る！という、これもまた、世界でここだけしか体験できません。

☆.....☆

<余談> *エルミタージュ好きが功を奏でたのか？

驚く事に訪問から数年後に「エルミタージュ美術館室内管弦団」と日本で一緒に仕事をする事になりました。ご縁はこうして繋がっていくのですね。

☆.....☆

また、猫好きの皆様、美術館の地下には猫が、膨大な絵画をネズミから守るために、エカテリーナ 2 世の時代から住み、正式に「絵画護衛官」という役を与えられ、現在美術館に 60 匹以上の猫が住んでいます。1 匹ずつ名前が付けられ、写真入りの身分証明書も発行され、猫の世話係担当が、食事から健康管理まで行っています。

毎年 3 月 28 日は「エルミタージュ猫の日」です！って、、、猫も職員？にしてしまう粋なところも、他の美術館にはない！ところですね。猫！大好きな私としては、とてもテンションが上がる！場所です。猫好きな皆様！「エルミタージュ猫の日」ツアー組んで行きませんか？(笑)

実は、エルミタージュ美術館には、一般には公開されていない秘密の部屋があります。

どんな部屋かは、ここではお話し致しませんが、いつの日かこの場所で<「ロシア映画祭 in 東京」in エルミタージュ？>として、ロシア映画祭にご来場頂きました皆様と共に、日露の映画作品を上映しながら日露交流のイベントを開催する事が私の希望です。その日が来ましたら、この秘密の部屋？に皆様ぜひお集まりくださいませ。

合言葉は...「ろしあ えいがさい いん とうきょう」ですよ！^^/ 戦争時代に美術品を守った館員の方々のお話しも感動もの！ですが、ここでは割愛致します。

...エルミタージュ美術館に魅了された私は、語り出したら止まらなくなってしまうので、ここまでに致します。そう言えば美術館長が仰っていました「エルミタージュ美術館はロシアの美術館ではなく、世界の美術館だ！」と...まさに！！

エルミタージュ美術館にご興味をお持ち頂けましたら、ぜひ...



アレクサンドル・ソクーロフ監督作品『エルミタージュ幻想』をご堪能下さい。

*エルミタージュ美術館にて、90 分ワンカット長回しで撮影されました。デジタルカメラ時代になったからこそ、創る事が出来た素晴らしい作品です。

制作者の視点では、驚異的です。制作現場では「段取り！命」という言葉を良く使いますが、綿密な段取りをしていないと 90 分！まわすなんて...体力的な事も含めてカメラマンも生きた心地がしなかったことでしょう。撮影技術についてのドキュメンタリー映像は必見です。

北のベニスと言われる！ネヴァ川河口デルタに位置し、風光明媚な「サンクトペテルブルグ」の街は、まさに！芸術文化の街で、

私の小さい頃の夢！マリンスキー劇場で「白鳥の湖」を鑑賞し、エルミタージュ美術館に行く！という願いを叶えてくれました。私の 80 か国歴訪人生の中でもベスト 3 に入る！お勧めの街です。
ロシアに行ってみたい！と思う方がいらしたら、まずは「サンクトペテルブルグ」へ！！



「ロシア映画祭 in 東京」で上映されたサンクトペテルブルグで撮影された作品

第一回:『白夜』 タチヤナ・ヴォロネツカヤ監督作品

第二回:『天才バレエダンサーの皮肉な運命』 アンナ・マチソン監督作品

☆.....☆

<余談>

エルミタージュ美術館(冬の宮殿)に行かれたなら、ぜひ(エカテリーナ宮殿=夏の宮殿)へ！

「琥珀の間」必見です。世界唯一の琥珀で装飾された部屋。戦争中に破壊されたが、1979 年から琥珀の間の修復が開始！復元にあつた人々の地道な作業が実り、2003 年に 24 年の歳月をかけた修復が完了。

なんと！この「琥珀の間」の修復に携わったロシアの琥珀職人さんが、実は、ロシア映画祭実行委員の字幕担当メンバー「守屋愛さん」のロシア人のご主人と義理のお父様です。宮殿の修復に携われる！技術能力のレベルはとんでもなく高いのです。

そしてまた驚く事に、琥珀職人の義理のお父様は、日本を気に入って下り、現在は日本にお住まいで、琥珀職人としてご活躍されています。（＊パンフレットをご購入頂いた皆様は広告ページをご覧ください！芸術的な作品の写真をご覧頂けます）

凄い！ご縁の巡り合わせ～またまた繋がりました～^^

<<プチトリビア>> ＊ついでに調べてみました！

琥珀の効果は？

- ・精神を安定させる！
- ・太陽のエネルギーを含み、元気のない時に身につけると生命力が高まり、気力が湧いてくる。
- ・こすると静電気を帯びる帯電効果があることから良い気を引き付けるとされ、金運、仕事運、人気運が良くなると言われる。
- ・邪気を払う効果、子供が持つと悪霊や災、病気から守り、大人が持てば健康と長寿に繋がる。

なんと！凄い効果まくりですね☆

という事は、「琥珀の間」はパワースポット！だったのですね。なるほど、そう言えば私もここに行って、琥珀のアクセサリーを購入してジャラジャラと付けてた時期がありました（笑）その時の金運と仕事運！共に絶好調だった事を改めて思い出しました。恐るべし効果絶大！

☆.....☆

ここまで、私のロシア愛？を簡単にご紹介させて頂きましたが、ここからは、本題の「ロシア映画祭 in 東京」に至るお話しを進めさせて頂きます。

ロシア訪問～エルミタージュ室内管弦楽団とのお仕事から月日は流れ～、映像制作者として、日本映画界の課題や今後の発展に関して模索していたところに、ロシア映画祭を東京で開催したいとの話が耳に入ってきました。

協力者を求めていますので、「これはロシアの神様？に呼ばれたな！」って事で、導かれるままに、JIC旅行社伏田さんのところに打ち合わせに行きました。

驚く事に開催日が、2週間後！！しかも来日ゲストのビザの申請許可が取れていない！との事でした。なんと！...

「2 週間で映画祭の準備をする！！」

お久しぶりの「ロシアの神様？」！ずいぶんハードル上げてきますね×

そうでした...すっかり私の中からロシアが遠くなっていました。

「ロシアの神様？」忘れていませんから～～～！

ロシアの芸術文化から学んだ事への感謝の想いも込めて、ご恩返しをする時が来たのかも知れない。その反面、制作者の私としては、「映画の神様？」なんで日本映画じゃなくて、「ロシア映画？？」なのか...

その時の私は、明確な答えはないが、「映画」が日露の架け橋として、とても重要なポジションになるのかも知れない！...と、、勝手に使命感に燃えてしまった私は、天に向かって「はい！もちろんやりますよ」って事で、運営メンバーとして参加する事と致しました。

こうして、またロシアと「繋がる」事になりました。

波乱万丈？の第一回ロシア映画祭 in 東京へと続きます・・・。

手作り映画祭だからこそその素敵な出会いに「繋がって」いくのです。（つづく）

ベルリン国際映画祭銀熊賞受賞

映画「ドヴラトフ

レニングラードの作家たち」

DOVLATOV

アレクセイ・ゲルマン・ジュニア監督

4月25日(土)～渋谷・1-ロスペースほか、全国順次公開

20世紀で最も輝かしいロシア人作家の一人と言われるセルゲイ・ドヴラトフの激動の半生を追う。1971年のソビエト・レニングラード(現ペテルブルグ)で、ジャーナリストとして働きながら文筆活動にいそしんだ日々。「雪解け」と呼ばれて言論に自由な風が吹いた社会に再び抑圧的な「凍てつき」の空気が満ち始めた時代を背景に、主人公ドヴラトフをはじめ若き芸術家たちのひたむきな生が描かれる。

セルゲイ・ドヴラトフ（1941年9月－1990年8月）

ソ連／アメリカの作家。反体制的作家とされ、地下出版で作品を発表した。1978年アメリカに亡命。死後はロシアでも人気作家となる。

配給・宣伝：太秦 03-5367-6073／info@uzumasa-film.com

「ロシア文化事典」出版記念シンポジウム

2 月 15 日、東京大学・本郷キャンパスにて、丸善出版「ロシア文化事典」の出版記念シンポジウムが開催されました。同事典編集代表の沼野充義氏、池田嘉郎氏、望月哲男氏らが呼びかけたもので、当日は 250 名近い参加で、一部立ち見も出るほどの大盛況でした。以下、シンポジウムに参加した JIC スタッフの報告です（編集部）。



写真提供；ロシア連邦対外交流庁 イーゴリ・チトフ在日代表

謎のロシア、魅惑の文化

2 月 15 日（土）、東京大学で開催されたシンポジウム「謎のロシア、魅惑の文化 ロシア文化史への新しいアプローチ」を聴講してきました。これは先日出たばかりの『ロシア文化事典』（丸善出版、2019）の出版を記念したイベントです。

長らく待ち望まれていたロシア文化の総合事典がついに現れた！というだけでも、私達ロシア・旧ソ連境界の住人には十分にインパクトのある話題ですが、今回のシンポジウムはその編集に関わった方々から生のお話がたくさん聴けるとのことで、わくわくしながら会場に向かいました。

文学部一番大教室は満員で、熱気に満ちていました。司会の沼野恭子先生、編集代表の沼野充義先生、望月哲男先生、池田嘉郎先生をはじめとする、錚々たる先生方からご挨拶があったから、最初のプレゼンテーションに立ったのは学生さんたちです。皆、東京外国語大学の沼野恭子先生のゼミ生たちで、それぞれ思い思いに事典の中で自分が面白いと思った部分を手短かに発表していきます。その数 6 名。中には私が知っている学生さんもいらして、ご活躍の様子に嬉しくなります。

その後も鴻野わか菜先生、亀山郁夫先生らが登壇され、興味深くかつユニークなテーマでお話をくださいました。

それにしても、発表の端緒を切るのが重鎮の先生ではなく、初々しい学生さんたちであることが、この事典のコンセプトがどういうものかを、何よりも雄弁に物語っていました。これは新進気鋭の研究者たちと、伝説的泰斗の方々が一緒になって作り上げた、ほんとうにロシアの今を切り取る事典なのです。

沼野充義先生は繰り返し「自分で言うものではありませんが、すごくいい事典ができたと思います」とおっしゃっていました。その真価と魅力は正しく参加者に伝わったようです。会場で販売された『ロシア文化事典』は、決して安くない価格にも関わらず飛

ぶように売れ、勢い余って図書館の蔵書まで売ってしまうハプニングまで発生し、会場は笑いに包まれました。この事典、絶対におすすめです。

さて、濃密だったシンポジウムのすべてをこの紙面でお伝えすることはできませんが、会場で出会ったもうひとつの新しい書籍のことも報告しておきます。

ウラジーミル・アレクサンドロフ著『かくしてモスクワの夜はつぐられ、ジャズはトルコにもたらされた』（白水社、2019）——これは百年ちょっと前のアメリカ南部に生まれた黒人、フレデリック・トーマスが、人種差別の激しい祖国に見切りをつけて欧州へ渡り、各地を転々としながら興行師としての才能を開花させ、人種差別のまったくなかったモスクワでついに大成功を収めるものの、ロシア革命が勃発、やむを得ず全てを捨ててコンスタンティノープルへと逃れる——というあまりにも意表を突く実話を描写した歴史ノンフィクションです。

翻訳をされた竹田円さんから、この主人公の壮大な人生の紹介があったあと、白水社の編集担当の栗本さんが客席からお辞儀をされました。そのとき、思い出したのです。そういえば栗本さん、何年か前に「すごい作品に出会いました。きっとこれは世界を変える本なので、必ず出版します」みたいなことをおっしゃっていました。それがこの本なのかしら。確かに、ロシアの黒人（ずばり原題は *Black Russian*）というテーマは、何かものの見方を一変させるほどの力を持っている気がします。

解説を書かれた沼野充義先生がおっしゃるには「これは本当にいい本です。でもあまり詳しくお話して、みなさんが読んで気になってしまってもいいけませんので、ぜひ買って読んでください。」と。そういうわけなので、私も買って読むことにします。間違いなく面白いはずですから！（岡本健裕／JIC 東京スタッフ）

ロシア文化フェスティバル in Japan 2020

4 月 14 日にオープニング！ 今年も盛り沢山のプログラム

2006 年に始まったロシア文化フェスティバル in Japan は今年で 15 回目を迎えます。

折しも「日ロ交流年」(2018-19 年)の成功を受けて、今年から「日露地域・姉妹都市交流年」(2020-21 年)が実施されます。

4 月 14 日、東京千代田区の紀尾井ホールで開かれるオープニング・コンサートを皮切りに、今年も文化フェスティバルの多彩なプログラムが準備されています。

* 詳細はロシア文化フェスティバル組織委員会のホームページでご確認ください ☞ <http://russian-festival.net/>

- **ロシア文化フェスティバル in Japan オープニング・コンサート**
4 月 14 日 (火) 15:00 開演／紀尾井ホール
国際コンクール優勝 4 人による競演
トロンボーン & クラリネットとピアノ、ヴァイオリンのコンサート
入場料: 8000 円 (全席座席指定)
主催: ロシア連邦外務省、ロシア連邦文化省
ロシア文化フェスティバル 2020 in Japan 組織委員会
- **サンクトペテルブルグ・フィル コンサート**
4 月 21 日 (火) 19:00 開演／東京・サントリーホール
ユーリ・テルミカーノフ指揮 チャイコフスキー: 歌劇「エフゲニー・オネーギン」ほか
4 月 23 日 (木) 14:00 開演／東京オペラシティ・ホール
ニコライ・アレクセーエフ指揮 プロコフィエフ: 交響曲第 1 番ニ長調「古典」ほか
主催: ジャパンアーツ 0570-00-1212
- **映画「オーバー・ザ・リミット」**
新体操の女王マムーンの軌跡～華麗なる金メダリストの想像を絶する過酷な舞台裏が今、ベールを脱ぐ。
監督: マルタ・ブルス 出演: マルガリータ・マムーン
4 月、ヒューマントラストシネマ渋谷、新宿ピカデリーほか、全国ロードショー
- **チャイコフスキー国際コンクール 2015 優勝！**
ドミトリー・マスレフ ピアノ・リサイタル
4 月 24 日 (金)／東京・サントリーホール
4 月 26 日 (日)／武蔵野市民文化会館
問合せ: テンポプリモ TEL: 03-3524-1221
- **加藤登紀子コンサート 2020 ロシアン・ラブソディー**
5 月 6 日 16:00 開演／新潟市北区文化会館
入場料: 一般 5000 円 学生席 1000 円
問合せ: TEL 025-388-6900

- **ボンダルチュク生誕 100 年記念 名作映画祭**
5 月 9 日～29 日／アップリンク吉祥寺にて
＜上映作品＞
「戦争と平和」4 部作 (1965-66 年)
「人間の運命」(1959 年)
「ワートルロー」(1970 年)
「バトル・フォー・スターリングラード」(1975 年)
「セルギー神父」(1978 年)
問合せ: ㈱パンドラ TEL: 03-3555-3987
 - **ドキュメンタリー映画「信頼への道～日本の中のロシア人」**
6 月 12 日 (金) 15:00 開映／浜離宮朝日ホール小ホール
入場料: 無料
日露地域交流年企画、マリーナ・キレエヴァ監督
主催: ロシア文化フェスティバル日本組織委員会
 - **谷本潤 × V・ブードニコフ デュオコンサート**
7 月 17 日 (金) 18:45 開演／日本ホーリネス教団 東京中央教会 (大久保)
入場料: 3000 円 大学生以下 2000 円
主催: 日本ハバロフスク音楽交流委員会
 - **ロシア・スポーツ映画祭 *2020 東京オリンピック記念**
会場: 浜離宮朝日小ホール
7 月 1 日 (水) 18:30-20:00
「スポーツ、スポーツ、スポーツ」(1970 年／85 分)
7 月 2 日 (木) 18:00-20:30
「おお、スポーツよ、君は平和だ」(1980 年／150 分)
7 月 3 日 (金) 18:00-20:15
「バスケ！より高く！」(2017 年／133 分)
問合せ: ロシアンアーツ TEL 03-5919-1051
 - **モイセイエフ記念・民族舞踊アンサンブル**
10 月 27 日 (火)／福生市民会館大ホール
10 月 28 日 (水)／茨城県・ザ・ヒロサワ・シティ会館
10 月 29 日 (木)／栃木県・小山市立文化センター
10 月 30 日 (金)／東京・新宿文化センター
問合せ: ロシアンアーツ TEL 03-5919-1051
- * 11 月下旬～12 月来日予定！
- **ポリショイバレエ公演**
11 月 26 日～12 月 6 日／東京文化会館
東京ほか他都市での公演も予定。3 月チケット発売開始！
「白鳥の湖」「スパルタクス」「ポリショイのすべて」
問合せ: ジャパンアーツ TEL: 0570-00-1212
 - **ロシア国立モスクワ・クラシック・バレエ**
チャイコフスキー「くるみ割り人形」
 - **サンクトペテルブルグ・アカデミー・バレエ**
アンドリアン・ファジェーエフ芸術監督
 - **サンクトペテルブルグ室内合奏団**
～バッハ・ヴィヴァルディ 極上のバロック～

昨年 2 月の大阪日口協会総会で、大阪大学のヨコタ村上孝之准教授が、「ロシアのトイレ事情」について大変面白い講演をされました。食事と排泄は人間生活の基本ですが、食事の話をする人は多けれど排泄の話をする人はほとんどいません。しかし、食事と同様に、トイレ事情にもそれぞれの国の文化が色濃く反映しています。

以下、講演の要旨をご紹介します（文責：編集部）。



ヨコタ村上 孝之（大阪大学大学院言語文化研究科・准教授）

「下から見たロシア」

～ロシアのトイレ事情

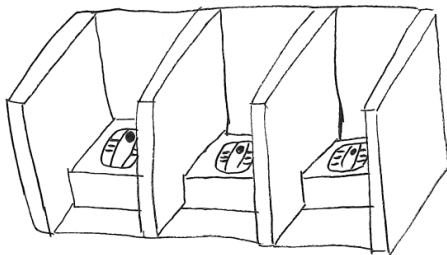
私はロシア文学が専門で、比較文学～ロシア文学と日本文学の比較研究とか、最近ではバイリンガル文学にも関心を持って研究しています。今日は「現代ロシアについて、あるいはロシアの若者文化について話してくれ」という依頼だったのですが、あまり若者文化には詳しくないので、何を話そうかと考えました。

いろんなことを研究しているのですが、実はトイレの研究もやっていて、2015 年に平凡社新書で「世界のしゃがみ方」という本を出しました。世界中のトイレを話題にしたものですが、今日はこの本からロシアのトイレ事情をかいつまんでお話ししたいと思います。

衝撃のロシア・トイレ体験

なんでトイレの研究なのか。1988 年頃にソ連（ロシア）に行った時に、ちょっと衝撃のトイレ体験をしたのが始まりです。あの～、扉がないわけですね。どこかの駅でした。急に「大」の方を催しまして、トイレを探して飛び込んだのです

が、扉がない。その時はのちのちトイレの本を書くなんて思ってもいなかったのですが写真を撮ってなくて、記憶をもとに書いたのが図のようなトイレです。日本の



和式の便器と同じようにしゃがむタイプの便器、「トルコ式」といってユーラシア大陸一般によく使われている便器ですが、これが真ん中にあって、扉がついてないわけです。どうしようかと困りましたが、生理現象には逆らえず意を決してやりました。

扉の無いトイレはそのあともロシア各地で見ました。入口が少しカーブになってるのもありましたが、基本は全部丸見えのトイレです。こういうトイレはその後ロシア各地で見られました。

「トルコ式」トイレでは外を向いてしゃがむ

で、この「トルコ式」トイレで、私は大きな間違いを犯しました。奥を向いてしゃがんでしまったのですね。奥を向いてしゃがむというやり方は世界広しといえども実は日本だけなのです。日本以外ではみんな外を向いてしゃがむ。日本の和式トイレには横を向いてしゃがむのはあるけれど、外を向いてしゃがむというのはない。昔、中世には武士が敵に襲われた時に備えて外を向いてしゃがむということはあったらしい。しかしその後、日本のトイレは奥を向いてしゃがむのが普通になってしまい、当然のことながらこの時、私もまた奥を向いてしゃがんでしまったわけです。

しかし、この「トルコ式」トイレはどこの国に行っても必ず外を向くようになっています。私の見た限り、タイでもベトナムでも、トルコでもチュニジアでも、どこでもそうでした。外を向いてしゃがむのが正しいのです。奥を向いてしゃがむと、人の視線がどこを向いているか分からなくて無防備になって恥ずかしい。誰か人が入ってきても、外を向いて目を合わせていれば、逆に大丈夫だというのが、基本的考え方なのです。

ロシア人のプライバシー意識

ロシア人というのはトイレにおけるプライバシーということをあまり考えてなくて、普通に外でやったりもします。自然の中でやる。観光バスがトイレ休憩で停まって、『その辺の森でやってこい』なんていうのが結構あったりします。

森の中だけでなく、町の中でもやる。1997 年ごろ在外研究でモスクワに住んでいた時には、ロシア人が町中でやる場面に出くわして驚きました。ロシア人と街を歩いていると、「ちょっと失礼」と言ってどこかへ行くわけです。ロシアの住居（アパート）はコの字型ないしロの字型になっていて中に中庭がある。こういう中庭に入って行って、暗がりでするわけです。

このロシア人のプライバシー意識の無さというのは、最近もソチ・オリンピックの時に話題になりました。ソチの選手

村のトイレには、小便器や大便器が仕切りもなしに並んで設えられていて、外国人選手を驚かせました。ヨーロッパやアメリカの選手たちが面白がって写真を撮りまくり、インターネットで拡散したので、多くの人の知るところとなりました。

よく言われる「立ち小便するのは日本人だけだ」などという言説はまったく作られたもので、ロシア人だけでなく他のヨーロッパ人でも平気でやります。トイレにまつわる話というのは、ある種の文化装置として、政治的イデオロギー的に扱われているところがあって、そういう意味で私は面白いなと思って研究しているわけです。

洋式水洗トイレをめぐる英仏対立

日本では洋式水洗トイレは高度成長期に団地がどんどん作られた時期（1960 年代）に導入され、普及していきました。導入の動機は「水洗の方が衛生的だ」というわけではないらしいですね。ちなみに、水洗トイレを発明したのはイギリス人で、それが各国に波及していくのですが、フランス人は長くこれに抵抗した。なぜか。洋式水洗便所は不衛生だというのが理由でした。便座がある、これに座る、お尻がつく、汚いじゃないか、不衛生だ、ということで非常に抵抗して、長らくフランス人は水洗便所を採用しなかったようです。

日本では 1960 年代から徐々に普及していくわけですが、その時は「スペースが節約できるから」というのが大きな理由だったらしい。洋式便器の方が和式便器よりコンパクトですよね。トイレの空間を小さくできる。団地の設計に便利なので洋式トイレが採用されていったということです。

世界中にある仕切りのないトイレ

プライバシーの話にもどると、これは何もロシアだけの話ではなくて、有名なのは中国の通称「ニーハオ・トイレ」ですね。要するに穴だけが空いてるトイレ。ここに並んでしゃがむ。ロシアだったら少なくとも横に壁があるが、中国は壁もなく、ただ穴がある。で、並んでやってる時に隣の人と挨拶したり、世間話をしたりできるので「ニーハオ・トイレ」なのですが、昔中国旅行するとよくありました。今はもうよほど田舎に行かないとないようです。

インドの公衆トイレも、道端にしきりがあるだけのものがあちこちにありますが、プライバシーにさして神経質でないトイレは世界中にあります。日本でも、個室が出てきたのは江戸時代になってからで、もともと昔は川とか森とかでやっていた訳で、同じようなものだったと思います。京都の東福寺には現存する日本最古のトイレがありますが、「ニーハオ・トイレ」と同じ構造で、縦 10m、横 30m の巨大な建物に、仕切りもなく穴がポン、ポンと並んでいます。

プライバシー重視というのは、そういう意味で非常に最近の現象であって、世界的にはまだあまり普遍的なことではないということがわかります。

便座のないトイレ

次は便座の話題です。椎名誠の有名なエッセーに「ロシアにおけるニタリノフの便座について」というのがあります。これは椎名誠がシベリアを旅行した時に便座のないトイレがあって、ロシアのトイレの凄まじさをこれでもか、これでもかと描き出しています。ロシアに何回か旅行した人は、便座のないトイレに気がつかれたと思います。便座がないというのはロシアではごく普通なのですね。ロシアだけかというところ、便座のないトイレは世界中にあって、ウズベキスタン、フィリピン、南アメリカでも見かけました。

最初に便座のないトイレを見て一番気になったのは、「これ、どうやって使うんだろう」ということでした。スクワットするのか、それとも汚れを気にせず便器に座るのか、それとも便器の上にしゃがむのか、……。いろいろ考えた。ずう〜と悩んだのですが、いつかロシア人に聞いてやろうと思っていた矢先、聞く前に回答を見つけました。モスクワで、洋式便器の両サイドに足を置くスペースのある便器を発見しました。



しかもこのスペースは外に向かって広がっているの、ロシア人は便器の上に外に向かってしゃがんでいるということが分かったわけです。

同じようなトイレを他でも見つけました。列車のトイレにも便器の上にしゃがむタイプのものがありました。巨体のロシア人が便器の上にしゃがんで大丈夫だろうか、危ないじゃないかと思っていたら、ウラジオストクのデパートではこういうトイレを見つけました。洋式なのですが、便器の外の両側にコンクリート製の足置き台がついたトイレ。これだと大丈夫です。

実は、和式／洋式の絶対的な区別はない

しかし、洋式便器なのに何でわざわざその上にしゃがむのか。それなら洋式でなくても和式＝「トルコ式」トイレを作っておけばいいじゃないか、と私は疑問に思うわけです。

ちなみに「トルコ式」という言い方は各国共通ではありません。イタリアでは「トルコ式」と言いますが、ロシアではそういう言い方はなくて、ほとんど区別してないようです。イギリスとフランスは水洗便所をめぐる種の争いがあったわけで、イギリス人は「トルコ式」を「フランス式」と呼んでいた。フランス人は「インド式」と呼んでいた。インド式、トルコ式というのは、「東洋式」「オリエンタル式」といった意味合いですね。

実は、「和式」対「洋式」という対立は、非常に恣意的に構築されているということが、調べてみると分かってきたわけですが、詳しくは平凡社新書の拙著「世界のしゃがみ方」を読んでみてください。

トイレトペーパーの話

最後に、トイレトペーパーの話です。これもソ連時代に行った人はご存知の通り、そのころのトイレトペーパーはゴワゴワで、硬くて、メモ用紙にもできるくらいしっかりした紙でした。「地球の歩き方」には、ソ連（ロシア）のトイレトペーパーは硬くて使えないので、必ず日本から 2 ロールか 3 ロール持って行けと書いてあった。

しかし、実はトイレトペーパーというのも比較的新しい発明で、トイレトペーパーを使わない時代の方がずっと長い。では何を使っていたか。これも私のロシア・ショック体験の一つですが、やはりソ連時代でした。モスクワのレーニン図書館に行って、トイレに入った時、見回すとトイレトペーパーがないのですね。ふっと気付くと本の箱のようなものが壁にかけてあって、その中に雑誌が入っていた。「そうか、レーニン図書館ではトイレの間も勉強しろよ」ということかと一瞬思ったのですが、よくよく見ると雑誌が切ってバラしである。これがトイレトペーパー代わりだった。日本でも昔は新聞紙を使っていたと思いますが、ロシアも新聞や雑誌を使っていたわけです。

トイレを通じて文化や社会が見えてくる

昔のロシアは住宅事情が悪くて、多くの人がコムナールカとかガステーニツァと呼ばれる非常に狭いアパートで暮らしていました。共同アパートです。各家庭は一部屋ぐらいしかなくて、キッチンやトイレ、シャワーなどはみんな共同でした。

これはウラジオストクの研究者仲間から聞いた話ですが、共同トイレでもペーパー代わりに新聞や雑誌の切れ端を使っていました。ところが気をつけないと、間違っ、たとえばスターリンの顔写真が載っているような新聞を入れていたりすると、さっそく密告されて、その日のうちに KGB が来て、「反ソ連分子」の咎で連行されたりした。トイレトペーパーにも気を抜けない時代があったわけです。

下世話な話をしましたが、トイレを通じていろんな文化が見えてきますし、社会状況も見えてきます。ロシアのトイレからはロシアの社会が見えてくる。

もう一つ、私が「世界のしゃがみ方」という本で言いたかったことは、私たちが持っているトイレの常識というものは、実は政治的イデオロギー的に作られた神話だったりするということ。そういう神話を私たちは読み解きながら、物事を見ていかなければならないのではないかと思います（了）

【ちょっと変わったベラルーシ留学記】 エピソード編 (4)

墓場になった村・ハティニ

鎌田 幸伸(通訳案内士／ペテルブルグ在住)

9 月のある日、アーラ・イヴァーノヴナ先生が言った。「来週の月曜日のあなたの授業は午前と午後の 2 コマですが、午前中 2 コマに変えたいです。よろしいですか？」
「いいですよ。何か都合ができたのですか？」
「今、ドイツ人の学生グループが来ていて、この子たちがどうしてもハティニ(Хатынь)のエクスカージョンに連れて行ってほしいというのよ。それで私がガイドをしなくてはならないのです。」
「ハティニ？何ですそれ？」
「ハティニというのは、戦争でドイツ軍に村人が皆殺しにされた村です。ベラルーシにはそういう村がたくさんあって、ハティニには村の慰霊碑や博物館があるんですよ。」

私は顔の青ざめる思いがした。私がベラルーシに来たのはロシア語を鍛えるため、この国の文化や歴史にはほとんど知識ゼロで来た。今だって日本文化をロシア語で話すのに必死で、この国の文化を学ぼうとする気力などゼロである。それに比べてドイツ人の学生たちはなんと意欲的に「この国の姿を見よう、歴史を見よう」としていることか。しかも、戦争をしていたのはドイツ人留学生の祖父や曾祖父の世代である。戦場となったベラルーシで「村人を殺した」のは一部の極悪なナチス・ドイツ兵だけでなく、その時代に生まれて仕方なく戦争に参加することになった大多数の普通のドイツ人兵士ではなかっただろうか。その兵士の孫、曾孫の世代の留学生たちが、「身を切られるような」惨劇の現場を大学に頼んでエクスカージョンを組んで見に行く。……彼らと較べると、私も含め日本人の「過去の戦争に対する態度」「歴史を見ようとする力」の次元の低さにがく然とした。

中国、韓国、東南アジアの国々を旅行する日本人は無数にいる。ほとんどはただ遊びにいく。彼らが「戦場で死んだ日本兵の慰霊碑」に行くことはあっても、「日本軍に殺された現地の人々の慰霊碑」を訪ねることは聞かない(そんなツアーはあるのだろうか?)。ハワイも人気の観光地だけれども、真珠湾攻撃で亡くなった市民の慰霊碑や戦争博物館を見に行ったという話はほとんど聞かない。

最近日本では「外国の悪口を書いた本」が売れることはあっても、「戦時中、日本兵が実際何をしたか」について伝えようとする本は少なくなった気がする。「今の日本は自らの歴史に対して狭量」と思う。

その夜、私はグループ授業で知り合ったドイツ人の友だちの部屋を訪ねた。彼は年齢 28 歳くらい。働いてお金をためて 2 ヶ

月の短期留学で来ていた。

「君はハティニのことを知っているのかな？ どうしてドイツ人の学生たちはそんな恐ろしい場所に行きたがるのだろう？ ハティニ村のことをドイツの人は皆知っているのかい？」

「オレはそりゃあまあ、知っているよ。オレはそのエクスカーションに来てって言われていて、明日、学生たちと一緒に行くんだよ。通訳をやらされると思う。ドイツとベラルーシは陸続きだから、そりゃ誰でもある程度は戦争について問題意識があるよ。だけれどドイツ人みんながこの村のことをよく知っているかというと、そういうわけではないね。ドイツでロシア語を勉強する学生は戦時中のドイツ軍の行動に関心を持っているし、大学でもそういうことを教えているんだ。彼らが学んでいるベルリンの大学とこのベラルーシの大学は提携を結んでいる。ドイツの学生たちはこの大学が提供する 3 つのエクスカーションから好きなものを選ぶようになっていて、彼らはハティニを選んだということだよ...」

「ただの観光地でない場所を選ぶ、というのが独特だね。ぼくも是非そこに行ってみたいと思う...」

すると彼は「あげるよ」とベラルーシの観光ツアーを催しているミンスクの旅行会社のパンフレットをくれた。私はドイツ人学生たちのエクスカーションに参加させてもらおうかと思ったが、「場の空気」を損ねるような気がしてやめた。

一ヶ月ほどして、すっかり秋深くなり曇天の日が続くようになった頃、私はハティニの観光ツアーに行った。..... 午後一時半にスヴィスローチ川の北側にあるホテルの前から小型のマイクロバスで出発した。バスには 20 人あまりが乗っていて、東洋系と西洋系の顔立ちがほぼ半々。日本人は私一人らしく、残りの人たちはロシア語がネイティブのようだった(東洋系の観光客は中央アジアの国々から来たのかもしれない)。

バスガイドもまた東洋系の顔立ちであった。彼女はメンバーリストを確かめると運転手に合図した。

「こんにちは皆さん。わたしはタマーラといいます。今日のエクスカーションのガイドを務めます。よろしくお願いします」。

ハティニは郊外にあり、ミンスクから 65 キロほど離れていた。ミンスク郊外の風景はなだらかな丘陵が大きな波がうねるように連なっている。山がない。“なだらかな平原と丘のつらなり”は日本の景色にはないものだ。.....

タマーラはバスが走り出してしばらくすると目的地まで 1 時間以上延々と話をした。もちろん手加減なしのロシア語である。「戦争がどう始まって...ドイツ占領下で何があって...どうやってドイツ軍がソ連軍に追い払われたか...」事細かに話した。大学の先生は「外国人の学生がわかる」ように話してくれるが、このガイドさんの「手加減なしのロシア語」は私には難しかった。

国道をそれて深い森の道を奥に進んだところにハティニはあった。ガラとした感じ。バスから降りると観光客たちはタマーラに続いて歩いていく。私は集中力を高めた。

「皆さん、目の前に大人が子どもを抱えているブロンズ像があ

りますね。これには実在のモデルがいます。1943 年 3 月 22 日、ドイツ軍はこの村に來ると 149 人の村人を一人残らず大きな小屋に入れて鍵をかけて閉じ込め、火をつけて焼き殺しました。老人、女性、妊婦、子ども、乳飲み子、関係なしにです。半数はまだ子どもでした。小屋は木でできていますから火で崩れ落ちると、生きている村人が走って逃げようしました。それをドイツ兵たちが銃で狙い撃ちにして皆殺しにしました。二人だけ奇跡的に助かりました。一人は男の子で、小屋が火に包まれた時に気を失って倒れ、夜になってドイツ兵がいなくなってから気を取りもどし逃げました。もう一人は大人です。小屋が焼け落ちた時に走って逃げようしましたが銃で撃たれました。出血で意識を失って倒れました。彼もまた夜になりドイツ兵がいなくなってから意識を取りもどしました。その人の足元には自分の子どもが死にかけていました。そして目の前で息を引き取ったのです...。その男性は逃げて戦後を生きぬき、この村で起こったことを伝えました。その男性がこの像のモデルです」

※実際にはもう 6 人ほどの子どもが逃げ出すことができた。が、その子どもたちは別の村でドイツ軍の襲撃にあって殺されてしまった。後にハティニ村の事件を再現した映画がソ連で撮られる。邦題は『炎-268』(原題 『Иди и смотри-行け、そして見ろ』)。この映画は日本のレンタルビデオ屋にたまに置いてある。

※九死に一生を得た少年は 26 年後に変死する。彼はドイツ軍に協力し虐殺を手伝ったベラルーシ人を覚えていて、周囲の人に隠さなかった。この国には戦時中にドイツ軍に協力した人が少なからずいて、戦後に過去を隠して生活していたのだった。

棒が立っていて、囲いがしてある空き地がところどころにある。タマーラは説明した。

「全滅した村の住居の跡がわかるように空き地にしてあり、家とわかるように囲いをして暖炉の跡を残してあります。その数は 26 あります...」

カラン、カランと鐘が鳴っている。塔があって、その上部から聞こえる。

「ご覧ください。住居の跡の塔の上に鐘がついています。この鐘はハティニ村が共同墓地として整備された時に立てられました。30 秒おきに鳴るようにできています。この鐘はこの墓地に葬られた人のためにずっと鳴り続けます。」

奥に進んでいくと右側に灰色の壁があり、等間隔に小さな四角い穴がいくつも連なっている。その穴に子供用の玩具や花束がおいてある。66 あるらしい。

「このひとつひとつの穴は、幼稚園や学校で犠牲になった子どもたちの慰霊碑です。ドイツ軍は血液が足りなくなると地元の幼稚園や学校を襲い、子どもを連れ去って血を抜き、自分たちの兵士に輸血しました。多くの子どもたちが亡くなりました。その慰霊碑です」

さらに進んでいくと、だだっ広い墓地のような感じで、ある大きな区画にひとつずつ、上部が深緑の青色、下部が赤茶けた色

に塗ってある“木の切り株”のようなモニュメントのある場所に出た。

「墓地のような区画が見えますね。これらは人の数ではありません。“ひとつの区画”は全滅してなくなった“ひとつの村”の墓です。ここに 185 あります。ドイツ軍はこの国の 628 もの村落を村人ごと焼き払いました。その中のある村はそのまま無くなりました。戦後、戦場から戻ってきた若者たちが「全滅した故郷」を復興した村もありました。が、若者たちが「とても元にもどせない。違う場所で暮らしたい」と村から離れた時、その村は廃村となりました。そういう村は現在のベラルーシの地図には載っていません。そんな廃村になった村がここに葬られているのです。モニュメントは“村を焼き尽くした炎”をイメージしています。それぞれの区画に村の名前が記載されています」

“小さな穴のある灰色の壁”の近くにるとタマーラは別の説明を始めた。

「これは追悼の壁です。戦時中にドイツ軍は多くのベラルーシ人を連れ去って収容所に入れ、強制労働させました。ドイツ軍は満足な食事を与えませんでした。一日に一回だけ、小さなパンだけでした。収容所に入れられた人は長くもって数週間の命でした。戸外で素足で働かされ、ほとんどシャツ一枚しか着るものを与えられませんでした。冬は零下 20 度にもなります。寒さで死んだ人も大勢いました。……。そんな強制収容所がこの国に 260 ありました。この追悼の壁にはそれらの名前を記したプレートがかけられています。戦争中この国では 230 万人が犠牲になりました。国民の 4 人に 1 人が亡くなりました」

ベラルーシを占領したドイツ軍は文字通り「人間の皮を被った化け物」だった。けれど今の時代、私の知っているドイツ人は概して「ごく普通の人」である。しかも「前の戦争で日本兵が戦地でやったこと」を聞いて知っている自分は「ドイツ人はなんて恐ろしい民族だ」とは思えなかった。戦争が始まり、兵士が「自分たちこそ正義」「勝つためなら何をやってもいい」と思い信じ込んだとき、人はどれほど恐ろしいことをすることができるかという現実を見たような気がした。悲しみと虚無しか残らない戦争の真実をここ（ハティニ）は体現していた。

墓地を一回りしてバスにもどって来ると、向かい側に博物館があった。タマーラは言った。

「このハティニのことを詳しく説明している博物館です。中には映像資料もあります。けれども今日は、もう閉館時間を過ぎています。では、そろそろ帰りましょう。…」

私はもっとゆっくりと歩いて隅々まで見たかったし博物館も見なかったが、このエクスカッションは時間的にギリギリだった。まだ夕方 4 時過ぎなのだが、すでに陽は落ちようとしている。

バスは帰り道に『栄光の丘—Курган слави』に立ち寄った。ここはドイツ軍とソ連軍の激戦(1944 年 7 月)の跡地だった。丘の頂上に記念碑があり高い塔が立てられている。この丘を占領したソ連軍は反撃に転じ、独軍を追撃して駆逐した。(つづく)

＊＊JICのロシア語留学・研修＊＊

30 年間の実績「だから、JIC のロシア語留学」

JIC ロシア語留学研修は、JIC 国際親善交流センターが日本で最初に旧ソ連・ロシアの諸大学と直接契約により開始した私費留学システムです。この 30 年間で JIC がロシアに送り出した留学生は長期・短期合わせて 3,800 名以上にのぼります。

安心の現地アフターケア

留学中はできる限り自分のことは自分でやっていただくのが語学力上達の道です。しかし、一人ではどうしても解決できない大学との交渉ことや、緊急事態の際の連絡対応など、留学される皆様にバックアップするために、JIC では各受入機関と緊密な連絡体制を整えています。

ロシア語長期留学9月生・募集中



相談受付中！
早めにお申込みを！

期間：2020年9月1日より10ヶ月

締切：2020年6月15日

モスクワ国立大学 725,000 円(授業料 10 ヶ月) **予価**

サンクト・ペテルブルグ国立大学 798,000 円(授業料 10 ヶ月)

ウラジオストク極東連邦大学 344,000 円(授業料 10 ヶ月)

ミンスク国立言語大学 335,000 円(授業料 10 ヶ月)

※上記の金額以外に別途、寮費、手配料、渡航費用、ビザ代金および取得手数料などがかります。

◆JIC ロシア留学デスク◆

ロシア留学・旅行のお問合せ・ご相談に応じます。

お気軽にお越しください。

東京事務所 平日 9:30-18:00 03-3355-7294

大阪デスク 平日 9:30-16:00 06-6944-2341

※留学相談は、必ず事前に予約してお越しください

◆◆編集後記◆◆

▼日ロ平和条約交渉はこのところ膠着状況が続いているように見えますが、日ロの主張のどこが食い違っているのか。ガルージン大使の講演は、ロシア側の考えと見方を率直に伝えて大変参考になります。▼本号は、昨年 12 月に開催した第 3 回ロシア映画祭の記事をまとめて掲載しました。まだまだ積み残しの課題はありますが、多くの方々の協力でこの映画祭が成り立っているのだということを知っていただければと思います。▼次号(4 月 10 日号)は昨年 11 月の JIC セミナーでの貝澤哉先生の講演録を中心に編集する予定です。(F)